

≪阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業≫ 介護サービス事業所部会【報告書】			
サービス種別	居宅介護支援事業所部会		
開催日時	令和7年3月11日(火) 13:00~14:00	開催場所	阿南市役所202.203号室
部会代表者	仁木	報告者	仁木
議題	第2回部会での課題共有及び来年度の部会の在り方について		
参加者数	居宅介護支援事業所18名、阿南高齢者お世話センター2名		

議題①		第2回部会での課題共有及び来年度の部会の在り方について	
検討した項目	在宅医療の課題として、身寄りのない方や透析患者の在宅療養支援、入退院時の連携強化を検討する。また、救急時の搬送レベルや受け入れ態勢の確立、看取り支援として「玉手箱」の普及と勉強会の開催を進める。災害時のBCP作成や初動対応の整備、在宅医療の相談体制強化、マイナンバー更新の代行手続きも課題である。データ連携の導入促進、居宅部会の運営方法、透析患者の受け入れ施設不足の解決も重要な検討事項となる。		
検討内容	身寄りのない方や透析患者の在宅療養支援では、入退院時の連携シートの活用と支援方法の明確化を進める。救急隊との連携では、在宅での搬送レベルや主治医との情報共有を強化し、受け入れ態勢を整理する。看取り支援では「玉手箱」の普及活動を推進し、事例検討会を実施する。災害対応では、事業所ごとにBCPの作成を進め、地区割で安否確認の協力体制を整備する。在宅医療の相談体制では、個人からの医療相談が多いため、窓口対応の強化を検討する。マイナンバー更新手続きの郵送対応やケアマネによる代行も推進する。データ連携の導入を促進し、助成金の対象となる体制を整える。居宅部会の運営では年3回の開催を基本とし、副代表を設け、次年度のテーマを3月に決定する。		
結論	在宅医療の充実には、日常療養支援、緊急時対応、看取り支援、災害対応など多岐にわたる課題への取り組みが必要である。特に、身寄りのない方や透析患者の支援、入退院時の連携強化は喫緊の課題であり、関係機関との連携を深める必要がある。救急搬送や看取り支援については、主治医や救急隊との連携を強化し、具体的な対応フローを確立することが求められる。また、BCPの作成や個別避難計画の整備を進め、災害時の対応力を高める必要がある。データ連携の導入は、医療と介護の情報共有を促進し、在宅医療の質の向上に寄与するため、各事業所への普及が重要となる。在宅医療に関する相談体制を強化し、適切な支援が提供できるよう窓口の体制を整備することも課題である。居宅部会の運営では、継続的な議論を行い、次年度のテーマを明確にし、具体的な施策につなげることが求められる。		
残された課題	透析患者の在宅療養では、阿南市の受け入れ施設が少ないため、施設との連携強化や新たな受け入れ体制の整備が求められる。BCPの市への提出義務はないが、事業所間で統一した対応が必要となる。在宅での救急搬送について、主治医との連携方法が明確でないため、事前の対応フローを確立する必要がある。看取り支援では「玉手箱」の普及が進んでいないため、医療機関や介護事業所との連携を深める必要がある。医療介護MCSの導入を進めるため、各事業所への周知と導入支援を強化する。在宅医療の相談対応は増加傾向にあり、窓口の人員や対応体制の拡充が課題となる。居宅部会の運営において、役割分担の明確化や継続的な運営の仕組みを整備する必要がある。		

備考

【会議風景写真】

